

Lib.

京都産業大学図書館報

v.39, no.2 (Sep.20,2012)

特集

角田光代氏 講演会報告

TOWERの資料紹介

<特集>

「図書館書評大賞講演会報告」 2-3
「TOWER」 4-9

<海外の図書館紹介>

10-13
「ケンブリッジ大学の図書館」 齊藤 健太郎
「英国・エディンバラ大学中央図書館」 岩永 昌晃

<Lib. なび>

14-15

<教員文庫寄贈一覧>

16

<Information>

16

<自著を語る>

『近代日本の農業政策論』 並松 信久

『English-Japanese code-switching and formulaic language』

難波 和彦

『小中一貫（連携）教育の理論と方法』 西川 信廣・牛瀧 文宏

『日本の領土問題』 東郷 和彦



「本の料理法」～読むことと書くことの関係～

図書館
書評大賞
講演会

講師 角田光代



2012年7月4日、京都産業大学図書館書評大賞講演会を開催しました。今年の講師は直木賞作家の角田光代氏。Lib.ではインタビュー形式で行われた講演会の模様を一部抜粋してお届けします。

—学生時代や子どものころは図書館に行かれましたか？

角田：行きましたね。小学校・中学校・高校の時は学校にある図書館を非常によく利用していましたし、大学生の時は学校にある図書館と、大学のそばにある町の図書館によく行っていました。

—作家になろうと思われたのはいつ頃ですか？

角田：小学校1年生の時に、将来何になりたいかという作文を書いたことがあって、その時に将来作家になりたいと書いています。幼稚園時代に、母親のお迎えを待つ間やお昼休みにずっと本を読んでいたんです。すごく本が自分を助けてくれたという気持ちがあったので、それでたぶん作家になりたいと思ったんだと思います。

—その時から好んで読む本や好きなタイプの本はありましたか？

角田：小学校低学年の時は年齢にあった幼年童話、私が一番好きだったのは松谷みよ子さんという作家です。『ちいさいももちゃん』というシリーズや『龍の子太郎』とか、とにかく松谷さんの書くものが好きでした。成長していくにしたがって、たとえば小学校高学年になると、『注文の多い料理店』の宮沢賢治を好きになったり、中学生になって思春期になるころには太宰治がすごい好きになりました。年齢によって読書歴は変わっていきますね。

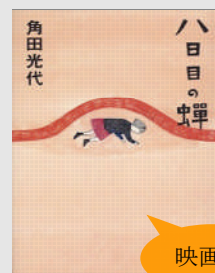
—次回作のテーマは、どういうときにどんな風に思い浮かぶのですか？

角田：世の中に対する疑問だったり怒りだったり湧くときがあるんですけど、何でこんなことになってるの？って思ったときに、それがテーマになることが多いですね。

たとえば、『八日目の蟬』を書いたときだと虐待のニュースが非常に多くて、世の中は母性をどう捉えているんだろうって考えたときに、女の人が子どもを産んだら母性が当たり前に出てくると世の中は捉えているのではないかと、そこでもし、いじめてしまう親なんていたら、即座に人間ではないというような言われかたをしてしまうのかなと思って。でも、母性ってそういうものじゃないって思ったんですよね。もっと文化と密接なもの、こういう文化だからこういう母性が育つってものなんじゃないかって思って、母性についてもっと考えたと思ったところが『八日目の蟬』の始まりです。

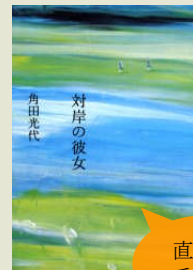


角田光代氏の著作



映画化

『八日目の蟬』
中央公論新社, 2007
(913.6) | KAK 2階



直木賞
受賞作

『対岸の彼女』
文藝春秋, 2004
(913.6) | KAK 2階



『紙の月』
角川春樹事務所, 2012
(913.6) | KAK 2階



『キッドナップ・ツアー』
新潮社, 2003
(913.6) | KAK 2階 文庫



映画化

『空中庭園』
文藝春秋, 2005
(913.6) | KAK 2階 文庫

一作品を書く原動力が怒りや世の中への疑問であるということですが、昨年の震災、その後の原発の事故もあったりして、怒りや疑問にあふれている世の中に、より一層なっているんじゃないかなと思うのですが、その辺りはどうお感じになりますか？

角田：私は昨年の震災のことを抜きにしても、ここ近年の社会が怒りや疑問というよりむしろ、正義・正しさでものすごく満ち溢れていて、ただその正義というのが、なぜか非寛容になっているという印象を持っているんですね。正義が正義でないものを排そうとすることが非常に強まっていて、ちょっと怖い。世の中が非寛容に……私が知っているとき、昭和とかそういうときよりも、正義感が強すぎて、逆に非寛容になっている世の中だなんて思うことがありますね。

一実は、作家として今だから言える、こういう読み方をして欲しいというのはあるのですか？

角田：この本に込めたメッセージは何ですかと聞かれることもあるんですけども、実は何もメッセージは込めてはいなくて、本当に好きに読んでほしいというか、こう読んでほしいという気持ちもないですし、十人いたら十通り、百人いたら百通りの読み方があると思うんですね。

一書評を書く上でのポイントなどあれば教えていただけますか？

角田：「何を書きたいか」ですよね。新聞の書評委員をやっていると、いろんな人の意見があり、自分の中の書評観を持って臨んでるなというのがわかります。たとえば面白くない本を取り上げたくない、「批判」をするためだけに書評を書きたくないって人もいたし、だからその人が取り上げる本は必ず、その人にとっておもしろかった本なんですね。この本のこの致命的な欠点だけは言いたいって人もいます。その書評を通して何をはっきりさせたいかということをはっきりさせると、書きやすいんじゃないかなと思います。あと書評って読んで面白くないって言うか、私は書評を頼りに本を買うことも多いですね。できれば魅力的なものであってほしいというか、「これ読みたい！」って思っほしいなあ、と思って書いています。

一京都産業大学図書館書評大賞は文系の学部生の応募がほとんどで、理系の学部生にももっと書評を書いてもらえたらと思うんですが……。

角田：私もそう思いますね！やっぱり全然見方とか違うだろうし、文系の方って書く機会がいっぱいあるので、書きどころってなんとなく無意識にわかっていると思うんですね。自然に書いてしまうと思うんですけども、それと全く違う視点とか、全く違う切り口で書けるのではないかなと思います。

当日は会場からの質問にもお答えいただきました。

その中からも一部抜粋してお届けします!!

一なぜ小説を書き続けるのか、角田さんにとって小説とはどういうものなのかをお聞かせください。

角田：小説を書き続けるのは、やっぱり1番好きなことなんですよ。嫌なこと、苦しいときがあっても、でも辞めたくないと思える唯一のことだと思うんです。私にとって小説とは何かというのは、「考えること」というのが1番近くって、多分小説を書いていなければ、一切ものを考えずに、次のごはんは何を食べようかしと考えてないと思うんですね。ただ小説を書くから、「母性とは何か」とか「今の社会がどうなっているか」とかそういうことを常に、それを小説に書くとかじゃないのですが、考え続けていることができるのだと思います。



角田光代 (かくた みつよ)

1967年神奈川県生まれ

2005年『対岸の彼女』で第132回直木賞受賞

2007年『八日目の蟬』で第2回中央公論文芸賞受賞

その他、婦人公論文芸賞、川端康成文学賞など多数受賞

今年5月、東京スカイツリーがついに開業しましたね。
皆さんはもう行きましたか？
スカイツリーを含め世界中のタワーには様々な捉え方
や物語があります。まずは、世界のタワーを知るため
の資料をご紹介します。

TOWER TOWER TOWER



『サグラダ・ファミリア: ガウディとの対話』

外尾悦郎著、宮崎真紀訳、原書房、2011

523.36||SOT 3階

サグラダ・ファミリア（聖家族贖罪教会）の彫刻を担当する著者が、建築家ガウディが残した同教会との対話を通じて、新たに作品を紡いでゆく姿勢を伝えます。多数掲載されている写真と合わせて、サグラダ・ファミリアの壮大なスケールを感じられる作品です。

『9.11の標的をつくった男 :天才と差別-建築家ミノル・ヤマサキの生涯』

飯塚真紀子著、講談社、2010

523.53||IIZ 3階

2001年9月11日のアメリカ同時多発テロから10余年がたちます。資本主義のシンボルであった世界貿易タワービルはもう在りませんが、建築した人物の一生は残り続けます。その生涯は、偏見と差別に見舞われましたが、終生を自然なこととして受け入れ、幕は降りました。噴煙と化した世界貿易タワービルから、あなたにはどのような人生が見えますか？



『摩天楼とアメリカの欲望:バビロンを夢見たニューヨーク』

トーマス・ファン・レーウエン著、三宅理一・木下壽子訳、工作舎、2006

523.53||LEE 3階

建築・文化・芸術を歴史的に批評する著者による、アメリカ摩天楼を文明論的に解釈しようとする一冊です。

新約聖書にある「バビロンの塔」のニュアンスをも含む摩天楼の真実を知りたい方にお薦めです！



『中国歴史建築案内』

楼慶西著, 高村雅彦日本語版監修, TOTO出版, 2008

522.2||ROU 3階

中国の仏塔などを含む歴史建築をまとめたもの。また中国全土マップには本書に取り上げられている建築物がマッピングされています。世界的に見ても経済成長が進む中国の、広大な土地とその歴史が垣間見られる一冊です。

『ロンドン塔:光と影の九百年』

出口保夫著, 中央公論社, 1993

233.3||DEG 2階

世界遺産として知られているロンドン塔の歴史を知っていますか?それは血塗られた過去で満ちています。美しい外観の裏で行われた拷問や処刑についても詳しく書かれてあります。この本を読めば、ロンドン塔に幽霊が出ると言われる背景が、少し理解できるかもしれません……。



ブルジュ・ハリファ

828m

東京スカイツリー

634m

メッカ・ロイヤル・ホテル
クロック・タワー

601m

広州塔

600m

CNタワー

553.33m

オスタンキノ・タワー

540m

台北 101

509.2m

オリエンタルパールタワー

467.9m



『世界のイスラーム建築』

深見奈緒子著, 講談社, 2005

522.7||HUK 3階

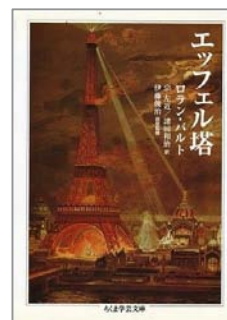
イスラム教の建築物の中にも、もちろん塔はあります。それはモスクに付随して建っており、礼拝の時刻を知らせるために使われるミナレットと呼ばれるものです。この本はイスラム建築を広く紹介していますが、ミナレットの説明も含まれています。広い地域に広がるイスラム建築物の比較もできる1冊です。

『エッフェル塔』

ロラン・バルト著, 宗左近・諸田和治訳, 筑摩書房, 1997

954||BAR 2階 文庫

レヴィ=ストロースが哲学的に展開した構造主義の手法を用いて文芸批評を行った著者が、エッフェル塔から記号と象徴を紡ぎだし、日常では気づかない関係性を明らかにしていきます。そして、脱構築の手法による無限の広がりの中、新たな解釈が与えられていきます。思考体操したい方にもお勧めの1冊です!!



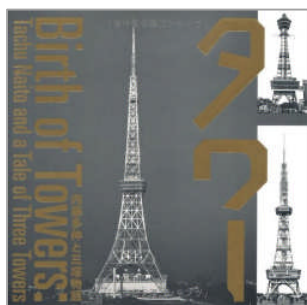
コレ知ってる?

～世界大タワー連盟とは! ?～

高層タワーの運営主体などによって構成される国際的な組織。本部はオーストラリアのメルボルンにあります。1989年に設立され、現在37のタワーが加盟しており、日本では、東京タワーのみ加盟しています。 <http://www.great-towers.com/>

TOWER

日本には東京スカイツリーのほかにも、東京タワーや京都タワー、通天閣などたくさんのタワーがあります。世界の塔に続いて、次は図書館の中にある日本のタワーの関連資料を紹介します！



『タワー：内藤多仲と三塔物語』

INAX ギャラリー企画委員会企画
INAX 出版, 2006
526.54||INA 3階

名古屋テレビ塔、大阪通天閣、東京タワー。これら日本を代表する3つの塔はいずれも内藤多仲氏による設計です。この本では、豊富な写真を用いた3塔の解説を楽しめるほか、内藤氏に関する資料の紹介も充実しています。



『五重塔入門』

藤森照信, 前橋重二著
新潮社, 2012
521.818||HUZ 3階

日本全国の五重塔が地図で一覧でき、国宝指定の塔についてはカラー写真とともに、その詳細なデータや豆知識が紹介されています。巻末の五重塔 2500 年史では、五重塔の「心柱制振」をヒントに建造された東京スカイツリーに関する記述もあります。

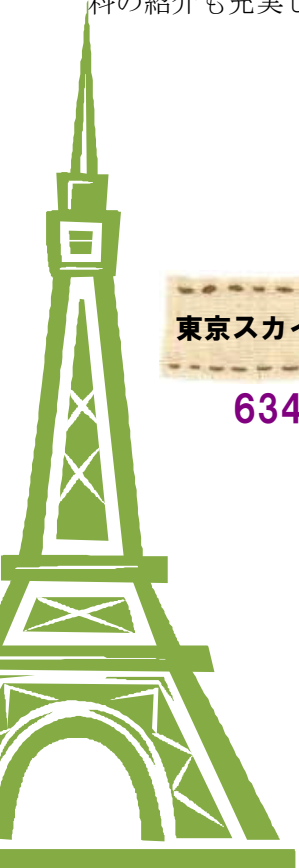


『ニッポンの塔』

:タワーの都市建築史』

橋爪紳也著
河出書房新社, 2012
523.1||HAS 3階

物見の塔、公共の塔、電波の塔、大衆の塔、人形（ひとがた）の塔、都市の塔、塔の塔という7つの視点から、明治以降に建設された日本の塔についてまとめています。東京スカイツリー、東京タワー、通天閣、太陽の塔などの多くの塔について、その建設目的や過程、海外の塔との比較、人々の塔に対する想いを知ることができます。



東京スカイツリー

634m



東京タワー

333m



明石海峡大橋主塔

298.3m



NHK 菅浦久喜ラジオ放送所
ラジオ第1送信塔東京タワー

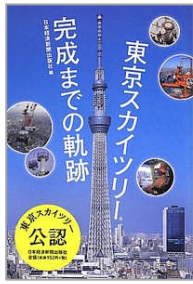
245m



瀬戸デジタルタワー

245m

TOWER



『東京スカイツリー完成までの軌跡』

日本経済新聞出版社編
日本経済新聞出版社, 2012
526.54||NIH 3階

東京スカイツリーの建設には現在の最新技術が惜しまず盛り込まれており、そこには関係者の創意工夫があります。本書ではスカイツリーがどのようにして建てられたのか、その成功までのクールで熱い道のりが描かれています。



『京都タワーの歩み:創業 50 周年誌』

京都タワー, 2009
689.067||KYO 地下1階

京都のシンボル、京都タワー。その創業 50 周年を記念して刊行された本書では、京都タワーのこれまでの歩みを知ることのできる年表や、年間行事等のイベントのほか、株式会社京都タワーの社訓や社歌なども収録しています。写真も多く掲載されており、京都人であるなら一度は読んでおきたい一冊です。



『東京人』

都市出版東京人編集室編
000TAM 2階

雑誌『東京人』27 巻 6 号 (2012 年 5 月発行) では、東京スカイツリー開業にちなんで、「タワー特集」が組まれています。古いものは江戸時代まで遡り、東京スカイツリーに関する記事はもちろん、ゴジラやキングコングに代表される怪獣映画における高層建築物を扱った記事もあります。雑学的な知識を身に着けたい方におすすめです！

塔は塔でも

ひやくまんとう ならび じしんいん だらにきょう



『百万塔並自心印陀羅尼経』 本学図書館所蔵(貴重図書)

百万塔は、天平宝字 8 (764) 年、国家安泰を願う称徳天皇の発願で木製の三重の塔が百万基作られ、法隆寺など 10 大寺に奉納されたものです。塔の先端が外れるようになっており、その中に陀羅尼経一巻が納められています。これは制作年代が明確な世界最古の印刷物です。



福岡タワー

234m



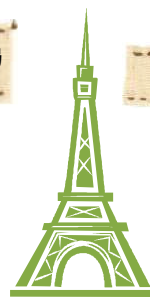
防衛省通信塔

220m



佐原テレビ中継局

218m



G1TOWER

213.5m



ちなみに
京都タワーは、131m



TOWER

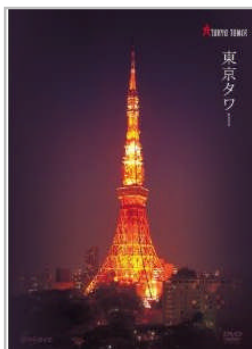
ここからは塔のドキュメンタリー作品を集めてみました。気になる塔が見つかったら、その高さや構造の巧みさ、美しさを映像でも確認してみたいはいかがでしょうか。



『東京スカイツリー：世界最難関への挑戦』

NHK エンタープライズ(発行), ポニーキャニオン(販売), 2011
(526.54||TOU 1階 DVD)

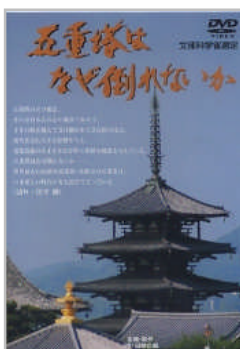
634mという未知の領域への挑戦。建設中に起こった東日本大震災。世界に誇る日本の技術力と数々の困難に立ち向かう作業員を追ったドキュメンタリーです。



『東京タワー』

日本電波塔株式会社企画・監修, NHK エンタープライズ(発行・販売), 2007
(694.21||NIH 1階 DVD)

長らく東京のシンボルとされてきた東京タワー。鳶職人が作り上げる様子や東京タワーの四季, 夜景スポットまで, 東京タワーのすべてがわかる1枚です。



『五重塔はなぜ倒れないか』

日映企画, 2006(521.818||GOZ 1階 DVD)

過去の地震でも倒壊例のない五重塔。その起源や耐震性の秘密を解き明かします。東京スカイツリーの耐震システムにも応用されたというその構造は必見です。



『世界ふれあい街歩き；スペイン：バルセロナ・グラナダ』

NHK エンタープライズ, 2007(290.9||SEK 語学ラボラトリーセンター DVD)

紀行番組のDVDシリーズ。バルセロナ編ではサグラダ・ファミリアなど、ガウディの建築物を巡りながら市内を一周します。実際に歩いて撮影された映像で、街を散歩しているような気分になてくれます。



『パリのセーヌ河岸；モン・サン・ミシェルとその湾』

TBS(発売), 2006(709||SEK||3 1階 DVD)

『リスボンのジェロニモス修道院とベレンの塔；ポルト歴史地区』

TBS(発売), 2005(709||SEK 1階 DVD)

ドキュメンタリー番組「世界遺産」のDVDシリーズ。フランス編にはパリのエッフェル塔,ポルトガル編にはバスコ・ダ・ガマのインド航路発見を記念して建築されたベレンの塔を美しい映像で収録しています。



番外編

『東京タワー：オカンとボクと、時々、オトン』

VAP(発売), 2007(778.21||MAT 1階 DVD)

リリー・フランキーの自伝的小説の映画化作品。ボクとオカンの強い絆を中心に,2人を取り巻くさまざまな人々との温かい触れあいを描いています。オダギリジョー,樹木希林など俳優陣の演技にも注目です。



TOWER

海外の図書館紹介

ケンブリッジ大学の図書館

Cambridge University Library
Seeley Historical Library

(イギリス)

齊藤 健太郎

7・8月にオリンピックが開催されたロンドンから、北東に列車で一時間ほどの、人口約12万人の大学都市ケンブリッジにあるケンブリッジ大学には、100以上の図書館があります。ケンブリッジ大学はコレッジと呼ばれる学生や教員の生活の中心になる組織と、研究や教育の中心である学部や学科・研究所から構成されていますが、その各々が図書館を持っているからです。これらの図書館はそれぞれに特色があります。大学の創立は13世紀ですから、その時代ごとの様々な図



写真1

書館があるのです。また、当時の有名な建築家によってつくられ、建築史的に重要なものも少なくありません。たとえば、トリニティ・コレッジの図書館は、ロンドンのセント・ポール大聖堂を設計した17世紀の建築家、クリストファー・レンがつくったものとして有名です。以下では、これらの図書館の中から、大学全体の図書館「大学図書館 The University Library」を中心に紹介します。

利用者たちが、親しみを込めてUL(ユー・エル)と省略して呼ぶ大学図書館は、800万冊以上の書籍・定期刊行物、100万枚以上の古地図を所蔵しています。イギリス国内では、英国図書館(ブリティッシュ・ライブラリー)やオクスフォード大学のボードリアン・ライブラリーなどと並ぶ法定納本図書館 Legal deposit libraryで、国内で出版された全ての刊行物を無料で納本要求する権利を持っています。日本では国会図書館などがそれに当たります(写真1)。

この規模は大学図書館としても希少ですが、利用者にとってULが素晴らしいのは、大学図書館がとても実際的で、自由度が高いことです。ボードリアン・ライブラリーがほとんど閉架式で、コピーを取るにも何かと手間が掛るのに対し、ここでは貴重書や政府資料などを除き、ほとんどの本が開架で利用者が自由に閲覧できます。また、本の「取り置き」のシステムも実際的です。図書館で本を読む時、1回の利用では読み切れず、数日にわたって本を手元に置きたいことはよくあることです。もちろん本は借りることもできますが、図書館のある場所に「陣取って」、しばらく一連の調べごとをしたいような場合です。こういう時、ULでは使用中の本に名前・使用開始日などを記入したスリップを入れて、5日間まで自分の使っている机の上にとっておくことができます。本を読む場所は、図書館中央部の読書室 the reading room(写真2)が一番広いのですが、廊下・書庫の中など、ほとんどあらゆるところに机と椅子があり、スリップを入れた本が重ねられています。もちろん、5日間が過ぎた本は図書館員やアルバイトの学生達が回収して元の書棚に返すのです。

広い（7階まである）建物全部を毎日、閉館後に見回っているのか、大変な作業だと思いますが、スリップの日付を更新し忘れたりすると、期限になると本は確実に取り去られています。



写真2

このような「自由」な使い方ができる理由の一つは、大学図書館が主に大学院生以上の研究者に使われているから、ということも否定できません。学部の1・2年生などが使う基本的な書物は各コレッジや学部・学科の図書館にあるので、多くの学部の学生はそちらを使うのです。とはいえ、学部の卒業試験前の5・6月の様子は違います。イギリスの大学は3年までですが、この時期になると、読書室から廊下におかれた机まで、専門性の高い本を求めてくる3年生たちで一杯になります。そして、試験期間が終わると……、アツという間に学生諸君の姿が消えるのは……、どこかの国の大学の図書館と同じですね。

さて、「大学図書館」の特徴は、もちろん、これだけではありません。その一つは、数多くの専門領域の特別室と特別コレクションの存在です。政府関係の刊行物を集めたコモンウェルス・ルーム Commonwealth Room や古書などを閲覧するための稀観書室 Rare Books Room など特別な部屋がいくつもあります。10年ほど前には、日本の書籍やアジア関連の研究書を所蔵する葵パビリオンが開設されました。特別コレクションには、

イギリスの中世文書、エジプトのカイロで発見されたユダヤ文献のゲニザ・コレクション、ケンブリッジの学者であるニュートンやダーウインの草稿など、文字通り枚挙に暇がありません。これらは、折につけ、特別展示室や廊下に展示されて、研究者たちに思わぬ発見やアイデアを提供してくれます。その一部はデジタル化されて、図書館のHPから見ることができます。

さて、写真1はULの外観ですが、何かに似ていると思いませんか？現在のULの建物は意外と新しく1930年代のもので、設計者のG.スコットは、イギリスの赤い電話ボックスを作った人で、ULのタワーの形を電話ボックスになぞらえる伝説があります。

学部・学科・研究所はケンブリッジの街のあちこちに点在しています。写真3は歴史学部の図書館 The Seeley Historical Library です。約10万冊の本があり、学部の学生は普段はこの図書館で勉強していますが、面白い外観ですね。これは、1960年代に、イギリスの戦後の著名な建築家であるJ.スターリングが設計したものです。ケンブリッジのコレッジには中世・近世の、重厚な石造りや古い煉瓦の建物が多いので、こんなにモダンな（またはポスト・モダンな）建物をみると驚く人もいます。けれど、伝統的でありながら、時にびっくりするくらいラディカルなこともするのがこの大学の面白い処です。



写真3

大学都市として有名なケンブリッジですが、勉強で訪問することはもちろん、この街は観光地でもありますから、皆さんがイギリスを旅行する時に立ち寄ることもあるかもしれません。コレッジや大学を見る時、図書館にも気を付けて見学すると、歴史や社会の変化の勉強にもなり、興味深い発見があることでしょう。

（さいとう けんたろう 経済学部教員）

英国・エディンバラ大学中央図書館

University of Edinburgh, Main Library

(イギリス)

岩永 昌晃

私は、2011年9月より、英国エディンバラ大学ロースクールにて在外研究を行っています。エディンバラ大学は、グレートブリテン島の北部を占めるスコットランドの首都エディンバラに1583年に設立され、オックスフォード大学、ケンブリッジ大学等につぐ、英国6番目に長い歴史を有する大学です。同大学は、自然科学者のチャールズ・ダーウィン、哲学者のデイビッド・ヒューム、発明家のアレクサンダー・ベル、小説家のコナン・ドイルなどの、近現代の重要人物を輩出してきました。また、最近話題となったヒッグス粒子の提唱者であるピーター・ウェア・ヒッグス教授もこの大学に在籍していました。現在でも、同大学は、英国では難関大学の1つとして知られていて、例えば、私の在籍するロースクールも、2012年の英タイムズ紙の大学ランキングでは、スコットランド1位、英国全体では7位につけているそうです。



図書館内部

エディンバラ大学の図書館は、中央図書館(Main Library)と学部学科に付属する12の図書館からなりますが、今回はこのうち私が滞在中によく利用し

ている中央図書館について紹介します。とはいえ、この中央図書館は、本を探す、借りる、自習をするといった図書館の基本的な利用方法の点では、京都産業大学図書館とほとんど異なるところはないというのが筆者の正直な感想です。筆者の気がついた京都産業大学図書館と異なる点といえば、図書の貸出・返却がセルフサービスで行われている点ぐらいです。ですから、ここではいくつかの目についた特徴のみを取り上げていきます。



図書館内部

この図書館の特徴の1つは、開館時間の長さです。学期中は、月曜から土曜までは、午前7時30分から午前2時30分までが開館時間であり、日曜も正午から午前2時30分まで開館しています。開館時間が長いのは、学生のニーズが高いからでしょう。実際、学期期間中は、学生が、自習スペースの席を争って確保して、朝から晩まで勉強していました。試験期間中になると、学生はさらに図書館の自習スペースに殺到するようで、席が足りず、机に荷物を置いて自席を離れても、30分経過すると別の人がその席を使用できるというルールが設けられていたことが印象に残っています。

この図書館のもう1つの特徴は、図書館の本来の機能とは異なるいくつかのサービスが提供されていることです。1つ目は、飲食物を提供するライブラリーカフェです。京都産業大学の図書館でも休憩室に飲食物の自動販売機が設置されているので、似ているといえますが、こちらは、より大々的で、図書館の中にスターバックスコーヒーが併設されているイメージだといえば、分かっていたでしょうか。



ライブラリーカフェ

2つ目は、図書館最上階に、大学が収集してきた古い文献等の資料を展示するギャラリーがあることです。もちろん、これらの資料は、研究のために利用することもできます。専門ではないので、詳しいことは分かりませんが、中世以来の貴重な古文書も収蔵されているようです。これは、前記のように非常に長い歴史のある大学だからこその特徴といえるでしょう。

3つ目は、学生に対するカウンセリングサービスとキャリアサービスが、図書館内の一角を占めて提供されていることです。これは、街の様々な場所に学部が点在する大学にあって、中央図書館は、所属学部に関わりなく多くの学生が高頻度で利用するという学生の便宜を考えてのことだと思います。カウンセリングサービスでは、専門のスタッフが、学業のこのみならず、友人や家族のこと、自分に自信がもてないといったプライベートのことまで幅広い悩みについて相談にのってくれるそうです。この辺りは、京都産業大学の学生相談室と同じですね。

キャリアサービスでは、学生の就職活動を支援していて、進路の選択、履歴書の書き方、面接の受け方等のアドバイスや様々な就職関係のイベントを行っています。このサービスは、在学中のみならず大学卒業後も2年間は利用できるそうです。また、在学中のアルバイトの探し方もアドバイスしてくれます。

筆者は、働くことに関わる分野を研究対象としていることもあり、新入生を対象とするキャリアセミナーを覗いてみたのですが、そこで講師の方が、在学中のアルバイトも就職活動を考慮して戦略的に選ぶようにと指導していたことが印象に残っています。

その仕事をすることによって履歴書に何が書けるのか、あるいは就職活動において自分の特徴をアピールするうえで、その仕事は役立つのか、そうしたことを考えて、アルバイトを選びなさいというのです。似たようなことですが、学生自治会によるボランティアの募集でも、この仕事をするこんなことが履歴書に書けますよということを売り文句にしているのを目にしたことがあります。学生生活の至る所で「就職活動のために」と考えるのは、なんだか味気ない気もしますが、これが、若年者の失業率が21.9%(2012年3月、日本は同時期に8.6%)と高く、日本以上に学生の就職活動が厳しい英国の学生の現実なのかもしれません。



キャリアサービスカウンター

最後に、図書館の特徴とは離れますが、英語圏の大学ということもあってか、学生が137以上の国々から集まっており、図書館でも、様々な国から来た学生を目にしました。実際、全学生の約30%、約29,000人が、英国外からの留学生なんだそうです。そうした中であって、交換留学生や正規学生として在籍する日本人学生にも数多く出会いました。日本では、留学や海外就職・赴任を望まない内向き志向の若者が増えているということも耳にしますが、たくさんの皆さんと同世代の日本人が、慣れない環境、言語の中で、世界の学生とともに勉学に奮闘していたことを最後にお伝えしておきたいと思います。

(いわなが まさあき 法学部教員)

プラネタリア

夢みる宇宙―語りかける星々

みなさんは、最近星を見たのはいつですか？

私は、外で寝そべって、星を見るのが大好きです。けれど、星や宇宙について詳しいわけではなく、不思議に思うことがまだまだ沢山あるので、何か答えを見つけないかと思いこの本を読んでみました。

この本は、それぞれの太陽系の惑星や星雲について、写真とエピソードなどで説明されています。説明も一つ一つ違って、エピソードには、有名な哲学者の言葉や、詩や神話などもあります。その他に、惑星と星雲からのメッセージがあり、それぞれの惑星や星雲の個性を活かしたメッセージと なっています。

その中で私のお気に入りには、とても神秘的な「土星」です。土星の周りの天使の輪つかのようなリングは、何からできているのか、不思議に思っていたのですが、この本に答えが書いてあり、とてもワクワクしました。

みなさんもこの本を読んで、お気に入りの惑星や星雲、惑星からのメッセージを見つけてください。本の中で、

宇宙は知識でとらえるのではなく「感じる」ことが大切だと書かれています。そこで、本学にはとても立派な天文台があるので、実際にお気に入りの惑星や星を見て、宇宙を感じてみてください。

教学センター 事務職員

中條 文香（なかじょう ふみか）

『プラネタリア…夢みる宇宙』
語りかける星々

加納真士著 ぱるす出版



440.4||KAN 3階

Lib. 神山人から

エル・システマ

音楽で貧困を救う南米ベネズエラの社会政策

みなさんは、「エル・システマ」というものをご存知だろうか？これは南米ベネズエラで行われているクラシック音楽の教育制度で、子どもたちに楽器を提供し、音楽の基礎知識や、楽器の演奏技術を教え、オーケストラ合奏や合唱に参加する機会を与えている。もちろんすべて無料である。

ベネズエラという国は、貧困と格差にまみれ、日常のように犯罪が発生している。まさにワースト平和度の国の一つである。もちろん子どもたちによる犯罪は後を絶たない。

この状況を打開するためにこの「エル・システマ」が発足した。子どもたちは、毎日のように学校が終わったら楽器を練習し、オーケストラ合奏を通して音楽を学んでいる。彼らは音楽という生き甲斐を得ることによって、貧困と犯罪から抜け出すことができるのである。

今では二十万人以上の子どもたちがこのシステムで音楽を学び、彼らの演奏水準の高さは世界に引けを取らないも

のとなっている。世界的指揮者のアバドは「これはあらゆる国の見本となるシステムである。」と述べている。「エル・システマ」は途上国だけでなく、世界の国々を音楽で幸福にできると言っても過言ではない。

工学研究科 生物工学専攻

中村 卓哉（なかむら たくや）

『エル・システマ 音楽で貧困を

救う南米ベネズエラの社会政策』

山田真一著 教育評論社



379.3||YAM 3階

Twilight

I love you more than everything else in the world combined.
Isn't that enough?

世界中で一億冊以上売れたベストセラー『トワイライト』。ティーンエイジヤーが次々に魅了され、『トワイライト』の熱狂的なファンを意味する「トワイライター」という言葉もできたほどの作品です。

ストーリーを簡単に言うと「周囲に馴染めないと感じている少女ベラと、見た目も中身も完璧な吸血鬼エドワードの甘く切ない恋愛ストーリー」。ありがちに思われそうな内容ですが、読んでみると……はまります。はまってしまします。

何といっても一番注目してもらいたいのは、エドワードのベラに対する一途な甘いセリフです。女性が一度は言ってもらいたい言葉。普通の人が言うときげに聞こえることでも、エドワードが言うると自然に聞こえてしまうんです。

既に映画を観た人も映画では観られないストーリーを楽しむことができ、また好きなフレーズを探して英語の勉強をしたり、楽しみ方は人それぞれですが、読む価値は十分にあります！

度読んでいても、もう一度読み返したくなる一冊。ぜひ一度『トワイライト』の世界をご堪能ください。

You are exactly my brand of heroin...

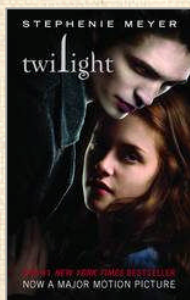
経営学部 一年次生

竹田 美成(たけだ みおな)

『Twilight』

Stephenie Meyer 著

Little Brown



933.7 | MEY 2階
指定図書

なび のオススメ!

好色一代男 (日本古典文学大系47 西鶴集 上より)

大阪思案橋の荒砥屋孫兵衛可心のもとから出版された西鶴の『好色一代男』はあつという間に江戸を席卷し、その強烈な個性は文学的にも強烈な影響を及ぼした。これは、世之介という七歳から女中に言い寄り最後は女護島に渡る好色な男の旅と人生の話である。この物語の何が江戸時代の人々をこれほど魅了したのか？何が現代に生きる私をもこれほど魅了するのか？もちろん、この物語は単なる「好色」や「旅」の話でも好色な世之介の「一代記」とどまらない。意志をもって好色を貫く自由人世之介を狂言回しとして、その周りの人間集団や社会を生き生きと描写しているのである。切羽詰ってだ

ど、読者は客観者としてそこに滑稽さを感じ。もつとも、事情が変われば誰でも経験しそうなことが描かれている。そんな当事者の中に自分自身を発見し、笑いが倍加させられるのである。

「なんと亭主替わった恋はござらぬか、きのふ(う) または(わ) けが死んだと申」。これは西鶴の俳諧の一つであるが、この句に見られる「何か面白いことがない？」という滑稽精神が『好色一代男』にも見られる。西鶴の筆致は、客観的な目で滑稽の対象を見つけ出し、読者を笑わせながら共感させずにはおかないのである。この共感、不思議と「面白いこと」が大好きな現代人の私の心にも響く。

私は国文学の専門家ではないがたまに古文で西鶴の著作集を読んだ。図書館には、現代訳もあるので、ふつと笑いたい人は気楽に西鶴の著作集を手にとられることをお勧めする。現代人にも充分共感できる「面白さ」を見つけることができるだろう。



910.8 | N1 | 47
コンテナ・サーバー

法学部 教員

寺沢 知子(てらさわ ともこ)

『日本古典文学大系47 西鶴集 上』
高木市之助ほか監修 岩波書店

Information

👉 秋学期の図書館利用教育計画

◆就職活動に役立つ「企業情報検索」ガイダンス

就職活動で必須の企業研究や面接対策に有用な企業情報検索のセミナーを実習形式で行います。ぜひご参加ください！

○日程：11月12日(月)、13日(火)、15日(木)、16日(金)

16:45～17:30

11月14日(水) 13:15～14:00

○場所：図書館1階 パソコン室

○内容：「日経テレコン21」「企業情報データベースサービスeol」の概要説明と検索実習。『会社四季報』などの紹介および実習。

※申込み方法等詳しくは、POST、図書館ホームページをご覧ください。

◆「レポート・論文作成法」ガイダンス

《ビデオの上映》

レポートや論文を書くときの具体的な手順を、ドラマ形式で紹介したビデオを上映します。

○日程：12月3日(月)～12月14日(金)

※土・日を除く

○時間：毎回12:30～(所要約30分)

○会場：図書館1階 図書館ホール

※11日・12日は102グループ視聴覚室にて上映します。

《検索実習》

レポートや論文を書くときに必要な参考文献を探す際に、必須の「CiNii Articles」データベースの検索実習を行います。

○日程：12月17日(月)～21日(金)

○時間：各日12:30～13:00

○集合場所：図書館1階102グループ視聴覚室

○申込場所：図書館1階視聴覚カウンター

※各実施日前日の17:00までにお申込ください。

👉 (予告)「第8回図書館書評大賞」の選考・表彰

図書館書評大賞の選考・表彰に関する日程は、次の通りです。

○入賞発表：11月30日(金) 10:00～

※図書館内に掲示。POST、図書館ホームページに掲載。

○表彰式：12月19日(水) 12:30～

5号館1階ロビーで開催

*『Lib.:京都産業大学図書館報』v. 39, 増刊号に入賞作品と講評を掲載します。

*表彰式は、書評大賞に関心のある皆さんはどなたでもご参加いただけます。選考委員に直接講評などを伺える機会です。どうぞご参加ください。

👉 (案内) ハート・ウォーミング・プログラム

秋学期も1階視聴覚フロアにて、図書館が所蔵する資料のなかから、テーマを決めて展示をいたします。詳しくは図書館HP、POST、学内掲示板、館内掲示でお知らせします。

教員文庫寄贈一覧

寄贈順(4/1～9/15) 敬称略

並松 信久(経済学部)

『近代日本の農業政策論：地域の自立を唱えた先人たち』 昭和堂, 2012

初宿 正典(法務研究科)

『判例法学』第5版 有斐閣, 2012 (共著)

坂東 俊矢(法務研究科)

『クラウド・コンピューティングの法律』 民事法研究会, 2012 (共著)

『中小事業者の保護と消費者法：ドロップシッピング：提携リース、フランチャイズ、不動産サブリースをめぐって』 民事法研究会, 2012 (共編)

東郷 和彦(世界問題研究所)

『日露新時代への助走：打開の鍵を求めて』 サイマル出版会, 1993

『日露関係：過去・現在・未来』(ロシア語)

『日本外交50年：1945-95』(ロシア語)

『Japanese strategic thought toward Asia』 Palgrave Macmillan, 2007 (共著)

『East Asia's haunted present: historical memories and the resurgence of nationalism』 Praeger Security International, 2008 (共著)

『歴史と外交：靖国・アジア・東京裁判』 講談社, 2008

『戦後日本が失ったもの：風景・人間・国家』 角川書店, 2010

『北方領土交渉秘録：失われた五度の機会』 新潮社, 2011

『「東北」共同体からの再生：東日本大震災と日本の未来』 藤原書店, 2011 (共著)

『日本の領土問題：北方四島、竹島、尖閣諸島』 角川書店, 2012 (共著)

『鏡の中の自己認識：日本と韓国の歴史・文化・未来』 御茶の水書房, 2012 (共編著)

生田 真人(外国語学部)

『Neue Beiträge zur Germanistik』 Iudicium, 2011 (p43-61)

荒井 文雄(外国語学部)

『学校選択のパラドックス：フランス学区制と教育の公正』 勁草書房, 2012 (共著)

植村 和秀(法学部)

『日本のソフトパワー：本物の〈復興〉が世界を動かす』 創元社, 2012

原稿募集!

「Lib. なび」・表紙・カットにご協力いただける方を随時募集しています。興味のある本学学生は下記までご連絡ください。

Lib 編集委員：lib-pub@star.kyoto-su.ac.jp

発行 京都産業大学図書館

所在地 〒603-8555 京都市北区上賀茂本山

電話 (075)705-1446